
あたしは、

香坂 奈桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたしは、

【Nコード】

N6995T

【作者名】

香坂 奈桜

【あらすじ】

彼がだいすき！好きすぎてたまらない“あたし”と“彼”の短編小説。恋の切なさ、辛さ、苦しき、楽しさ、いくつもの要素をつめ込んでみました。作者自身、相当楽しみながら書きました。

（前書き）

自由に育ててくれた両親へ、
いつも応援してくれる友だちへ、
これまで感想をくれた読者さんへ、
これから話を読んでくれる貴方に、
感謝のきもちを込めて。

なきそうになる。

背の高い後ろすがた。体型はほっそりしてるのに、肩幅はがっしりとしている。男のひとなんだなあと、思うと、もう今すぐ抱きつきたい、そんな衝動に駆られる。

彼は本棚で雑誌を物色している。彼が好きな雑誌は、あたしには理解不能。好きなものをみる、好きなことをする、その瞬間の目が好きなんだよね。だから、バイクやら男性ファッション誌やら、そんな本の内容には全く興味がわかない。

それから、ソファに座って、雑誌を読みはじめた。その横でじつと彼をみつめるあたし。

ねえ、こっち向いて。
あたしをみてよ！

小さなあたしの、ちいさな願い。ちいさな、ちいさなテレパシー。じつとみつめて、目で訴えても。今日もまた、叶えられないでいる。

あたしの心のなかなんて、想像したこともないんだろうな。

くっそー！

こういうときは、ついイタズラしてやりたくなる。

構ってほしいなんて言えないもん。我が儘な女だなんて思われたくもないし、せっかく苦勞して手に入れた彼のころなんだもん。ちよっとくらいのお慢はもう慣れっこだ。恋は、忍耐、我慢に、決断力だというのは、長すぎた彼への片思い時期に実証済み。

よし。片膝立てて、読書をする彼の腕をすこし掻いてみる。ちよい、ちよい、読書の邪魔をしても、怒られちゃうから、バレないようこっそりと。

……バレない。もうちよっと分かりやすく引つ掻いたら絶対怒られる。どうせ、あたしより、バイクがすきなんですよ、なんて僻んでみたりして。

たとえばこんな風に、何も会話がなくても、マイペースで自分の世界をもってる彼といても、あたしは幸せだと思ってる　ときどき、僻みっぽくもなるけど。

好きなひとの隣にいられるだけで、本当にしあわせなんだもん。弱音を吐いてくれるのも、仕事から急いで帰ってくれることも。全部、ぜんぶあたしだけの彼。世界中でたったひとり、あたししか知らない彼だから。

かわいいね、って言ってもらいたくて、彼のためにもっともっと自分を磨こうとする。そんなあたしに、やさしい気持ちをいつもプ

レゼントしてくれる。彼の笑った顔をみているだけで、こころは穏やかに満たされていく。

恋をすると女の子は綺麗になれるっていうけれど、あたしの場合容姿だけに留まらないんだよね。こころまで綺麗でいられる気がするから、恋ってふしぎだよな。

そんなことを考えてたあたしの隣で、彼は携帯を取り出し、いたなに、メール？　ふいに寂しさがおそってきて、あたしが擦り寄るみたいに甘えると彼はいった。

「ごめん。ちょっと、出かけてくる」

心地よい温度がはなれた瞬間、あたしは思わずあの女を想像した。

行かないで！

伝えたいことばほど、いつも声にならない。胸のした辺り、そこがきゅうんと苦しくなる。そして溢れてくる激しい感情。自分が自分じゃなくなる、激しい憎悪は次々と溢れては、あたしを黒く染めてしまう。

彼は何も言わない。あたしは何もいえない。だけど、あたしは知ってる　あたしに好きだと言った同じ口であの女に口づけているのを、あたしだけは知っている。

扉の閉まる音が、しずかにひびいた。

もう、限界だ。

耐えられないと思った。知らないふりは、もうできない。

ねえ、今日が何の日か知ってる？あたしの誕生日なんだよ。彼女の誕生日を忘れて、他の女に会いにいくなんて絶対に許せない。絶対、問いつめてやる。それで、もう別れてやる！

出てってやるんだから！ ああ、彼じゃなくてもいいんだ。そんな考えに行き着いたとき、あたしは決意した。

それから、数時間後。待ちにまつた扉がひらく。

誰と会ってたのよ、と喉まで出掛かったよくある修羅場文句は、彼の表情のまえに消えさった。

ねえ、どうしたの。まず、その言葉が口から出たのだ。彼の顔。土色で赤みがなく、瞳の奥がどことなくくらい。今にも倒れ込みそうなの、そんな、気分がわるいときの顔をしていたのだ。

そして、彼はこう告げた。

「なあ、オレ振られたんだ。慰めてくれよ……………」
まずはその香りを落としてこいとか、やっぱり他に女がいたんだとか、言いたいことは色々あった。だけど、痛々しいその表情をみていたら、やっぱり胸がくるしくなってしまう。

あたし、ばかなのかな。こんなに傍にいて、浮気されてもまだ、彼を憎めないでいる。さっきの決意はとうに消えて、彼への純粹な愛情だけじゃない、不可思議な想いを感じていた。

拭いされない嫉妬心。この想いは誰より大きいけれど、少しだけ濁ってしまった。今までとおなじ気持ちには、到底戻れやしないけれど。

ちらりとみた彼の目は、どこか頼りなく、表情はなんとも情けない。それをみていたら、またどこからか愛おしさが訪れてきた。

……あたし、やっぱりばかだ。浮気を繰り返してはあたしの元に戻ってくる彼もばかだけど、そんな彼がまだこんなに愛おしいなんて、ほんと救いようがないよ。

救いようがないばかり同士、お似合いだよ。

あたしだけは、ずっと傍にいるよ。どんなになっても、ずっとずっと、一緒だからね。そういつて、香水のにおいがする薬指をぺろ

りと舐める。

「ありがとう、ミーちゃん。やっぱりオレにはお前だけだよ!」

現金なやつだけど、女に振られたくらいで泣く、そんな可愛いところも好きなんだよね。ちいさなちいさな稲妻が、あたしの喉でなっている。しゃがんで、あたしの震えるのどぼとけを触って、彼はやっとうれしそうな顔をする。

ああ、よかった。

「にゃおん」

もう、浮気しちゃダメよ。そういうと、彼はあたしの頭をひとなでする。その日彼が買ってきた、誕生日プレゼントの缶詰めは、いつもより濃い、まぐろの味がした。

あたしは、ねこ。

（後書き）

今流行りのT w i t t e rなるものをやっています。

T w i t t e rにて、たまたま前作の感想を頂き、もう嬉しくて、わたしに恥というものがなければ、うひょー！と言って飛び上がってましたね。

友達へのメールでも言いましたしね（笑）

とにかくモチベーションだけが膨らみにふくらんで、

「あー！なんか書きたいー！」

でも、わたしが得意なのは長編ですし、複雑難解。ナンジャイナーなやつらばかり。設定段階で煮詰まっているやつらばかり。

「何かー。何かないかー！何かネタを……」

と、ネタに飢えたわたしが見つけたのは、今にも投稿しようと練っていたツイッター小説でした。

こやつは、かなり王道パターンですが、自分らしくてかなり気に入っています。

そして、そして！

久しぶりの投稿で、どつきどきしています。

ほんとに、久しぶり！

2006年で、わたしいつ書いたやつだよ！

まだ、未成年じゃないっすか！

……小説とちがい、あとがきは自由に書けるから好きです。

ミステリアスな作者を気取りたかったんですが、ネットでおともだち+作家ともだちがほしいため、あっさりやめました。

ここまで読んでくれたみなさん、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6995t/>

あたしは、

2011年10月3日10時32分発行